うきもよう

市内の“あれこれ”をご紹介します

見た！聞いた！地域の魅力再発見！

広報特派員や地域おこし協力隊が市内で起きた出来事を伝えます。

広報特派員
宮川 勝 さん

2月3日、三角町の戸馳稲荷神社の初午大祭を訪れました。コロナの影響で福餅投げがなく、寂しかったです…。

堤防の上からアマビエとくまモンに頑張ってもらい、早くコロナの流行がが収まってほしいと願っています。

道の駅不知火の物産館が2月5日に再開。オープン記念セールもあり、大勢のお客さんでにぎわっていました。

てくてく 手しごとさんぽ

ものづくりをする手から生まれる作品は暮らしを心豊かに彩る…そんな命を吹き込む手仕事を紹介します。

安らぎの「肥後花莫蓙」

綿の縦糸に赤や青、黄などに染色されたイ草を横糸として織り込まれる花莫蓙。伝統の敷き莫蓙のほか、現代の生活に合わせたコースターやランチョンマットなどの作品が、私たちの生活を豊かに彩ります。

障がい者福祉施設「清香園」の「肥後花莫蓙」は、県の伝統工芸品にも指定され、その品質は全国からも高く評価されています。作業は施設の利用者と職員の連携プレー。この道40年のベテラン大塚勝治さんは、「糸結びなら目をつむってもできます。使ってもらえるとうれしいですね。」と笑みをこぼします。

一つ一つ丁寧に仕上げられる花莫蓙。その柔らかな陰影や香り、手触りは、人々に安らぎを与えるとともにふるさとの伝統をこれからも伝えていきます。

清香園
松橋町竹崎1115-1
☎32-0444

1 仕上げ　2 約30色に染め分けられたイ草で作られる模様は約30種類
3 折れや色むらを選別

今月は 郡浦の雨乞い太鼓

後世に残そう。地域に伝わるおとぎ話の世界。

郡浦に勘九郎という爺さんがいました。ある日、林に雷が落ちたので見に行ってみると、小太鼓を10個ほどつないだひもを握った男の子が倒れていました。頭には小さな角。放っておけず連れて帰り、ゴロオと名付けかわいがりました。

祭りの日、ご馳走が準備できない爺さんのために、ゴロオは「意地悪には雷ば落とすばい」と太鼓を鳴らしました。すると、おすそ分けを持った人たちが続々とやってきて、二人は良い祭りを過ごすことができました。

しかし、雲の上からそれを聞いていたゴロオの父が、ゴロオを連れ帰ります。お礼にゴロオの太鼓を置き、鳴らせばいつでも雨を降らせると約束して…。

翌年、村が日照りに困り果てていると、爺さんはこの太鼓を配り、総出で村を練り歩きました。すると約束通り雨が降り、稲がよみがえったではありませんか。それから、この小さな太鼓はゴロオの雨ごい太鼓と呼ばれ、日照りのたびに叩くことで雨には困らなかったそうな。

イラスト／村上 明日香
〈不知火美術館 学芸員〉

あの人のこの一言

宇土半島には素晴らしい歴史がたくさんあって、興味を持って調べてみるととても面白いんです。不知火町で喫茶「寿限無」を開いて35年。近所には向野田古墳もあるし、田畑を掘れば今でも縄文土器が見つかりますよ。歴史を伝える古文書や写真も残っています。歴史を知れば知るほど、点と点だった知識がつながっていくのがうれしいですね。

お店にミュージシャンを招いてライブを開くほど音楽が好き。若い頃からフォークやクラッシックなど幅広く聞きますが、最近はBABYMETALが一番のお気に入りです(笑)。

河村 清文さん
65歳　不知火町

市民の何でもランキング

あなたに最も身近な人が選ぶランキングを発表。何かを決めるときの参考にしてみませんか。

今回のテーマ
春の楽しみは？

市民439人の回答

1位	212票	お花見(桜)
2位	38票	散歩
3位	34票	スポーツ・球春

PICK UP!
お花見
毎年家族で岡岳の桜を見に行くのが楽しみ
田中 彩華 さん（松橋町）

次回のテーマは　**回答期限：3/12㈮**
「子どもの頃、なりたかった(なりたい)職業は？」
回答は市公式LINEやメール、お便りで。皆さんの回答お待ちしています。

市公式 LINE